

UAE:BP, TotalFinaElf の上部ザクム油田再参入は、最高石油評議会の否決により凍結

(2000 MEES 10/2, 12/4, ECOMP 10/27, 12/1, UPSTREM 12/8, JNOC-ME000343)

視点

1. 上部ザクム油田への BP, TotalFinaElf の再参入問題は、最高石油評議会の否決により凍結。
2. 日本に与える影響についての ENERGY COMPASS 誌の記事もあわせて紹介する。

UAE 最大の生産油田である上部ザクム沖合油田（現状原油生産量 500 千 b/d，操業会社：ZADCO）の権益を巡り、BP, TotalFinaElf が、ADNOC の保有シェアの一部を取得することによりシェアホルダーとして参入するとの案が 2000 年 9 月に当事者間で合意に達していたが、10 月に開催された最高石油評議会（SPC）でこの案が否決されたため参入構想は凍結となった。

ADMA 鉱区内の上部ザクム油田については、1977 年までは BP, TotalFinaElf とも権益保有者の立場であったが、その年 ADNOC より同油田の開発が提案された際、低浸透性等の問題を敬遠して、両社は、開発事業への参入を見送ったという経緯がある。今回の両社の参入計画は厳密には「再参入 (=復帰)」計画であるといえる。

同油田の現状の権益シェアは国営 ADNOC 88%，日本の JODCO 12%であるが、今回の案は、ADNOC の保有シェアの一部を譲り受け BP が 14.67%，TotalFinaElf が 13.33%の権益ホルダーとして復帰するとの計画(変更後の ADNOC のシェアは 60%)であり、カーリーファ皇太子 (SPC 議長)，ユーセフ ADNOC 総裁も全面的に支持しているものと考えられていた。しかし、10 月に開催された SPC 会議では、「なぜ新規参入が BP と TotalFinaElf に限定され、Shell や ExxonMobil 等の国際メジャーにチャンスを与えないのか」といった強い反対意見が噴出したという。

結局、本件は凍結されることになったが、3 者間の合意はまだ生きているものと考えられ、今後の具体的な見通しについては今のところ不透明な状況である。

<日本に対する影響についての論評>

ENERGY COMPASS 誌が、再参入合意時と凍結時の 2 度にわたり、本件が日本に与える影響についてかなり刺激的な内容の論評を掲載しているので、参考までに一部を紹介する。

- 『日本はアブダビで敗北』 (ENERGY COMPASS 2000.10.27)
「かわいそうな貧乏日本人！サウジ中立地帯での利権喪失に続き、日本がアブダビで大事に育ててきた上流権益もいまや攻撃に晒されている。欧州 2 社の参入で JODCO の地位は大幅ダウン。」
- 『アブダビは ZADCO 権益計画を再考』 (ENERGY COMPASS 2000.12.1)
「多分日本にとって幸運な結果に終わりそうである。アブダビの心変わりで救われた。」

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。